

## 平成 28 年度第 2 回鎌倉市食育推進会議 会議録

日 時：平成 29 年 1 月 30 日（月）18 時 30 分～20 時 00 分

会 場：鎌倉市役所第 3 分庁舎 講堂

出席者：＜委 員＞中村会長、中谷副会長、有村委員、安齊委員、富田委員、  
牧田委員、横塚委員、メタ委員代理・村山氏

＜職員等＞食育連絡協議会（庁内）

福祉総務課長、こどもみらい課担当課長、保育課長、  
高齢者いきいき課担当課長、ごみ減量対策課担当課長、  
教育総務課担当課長、学務課担当課長、  
教育指導課長、教育センター所長  
小学校代表校長、中学校代表校長

事務局（市民健康課）

石黒課長、河合課長補佐、浦山職員、斉藤職員

傍聴者：なし

配付資料：

- ・【資料 1】 市政 e モニターアンケート「食育に関する取組について」最終結果
- ・【資料 2】 食育アンケート集計結果（20 歳以上）
- ・【資料 3】 第 2 期鎌倉食育推進計画の体系
- ・【資料 4】 国の第 3 次食育推進基本計画重点課題・目標
- ・【資料 5 - 1】 第 3 期鎌倉食育推進計画 取り組みの柱から基本施策（案）
- ・【資料 5 - 2】 第 3 期鎌倉食育推進計画 指標（案）
- ・【資料 6】 第 3 期鎌倉食育推進計画策定スケジュール（平成 28 年度～30 年度）（案）

### ■開会

事務局から、委員 11 人のうち出席者は 8 人で過半数を超えているため、本推進会議条例施行規則第 3 条第 2 項の規定により、会議は成立している旨、説明がなされた。

### ■議事

#### 1 アンケート調査の実施状況について

（事務局から、配付資料の確認の後、【資料 1】及び【資料 2】を用いて「アンケート調査の実施状況について」、次のとおり説明がなされた。

- ・アンケート実施方法について

第2期鎌倉食育推進計画を評価するための食育アンケートを8月下旬から実施し、現在の回収数は700枚程である。また、平成28年7月に「市政e-モニターアンケート」を利用し、第2期鎌倉食育推進計画の指標に沿った質問項目としたアンケートを実施した。食育アンケートは3月中に終了し、最終結果をまとめる。

・アンケート結果について

市政e-モニターアンケートの最終結果と、平成29年1月20日時点での食育アンケート（20歳以上）の暫定結果について、説明がなされた。「農水産業体験を経験した市民の割合」、「日常生活の中で、ごみの発生抑制に取り組む市民の割合の増加」については、第2期計画の目標値に達しているが、その他は目標値に達していないものが多かった。

「食育に関心があるか」の質問では、「関心がある」と答えた人は平成23年度が41.5%であったのにし、現状値は55%であった。食育の啓発は浸透してきているが、適切な食事・運動等を継続して実行に移し、行動を定着させるには至っていない。また、地元の食材の使用、よく噛んで食べること、食品表示に対する意識についても、継続した取り組みが必要である。

**【質疑等】**

**中村会長**

e-モニターアンケートはどのように行っているのか。

**事務局**

e-モニター制度に登録している人の携帯に一齐にメールが送信される。神奈川県「神奈川電子自治体共同運営サービス」というサイトの中で回答していく仕組みになっている。

**中村会長**

回収率33.8%はかなり良いのではないか。

**事務局**

412人に送ったうち155人から返答がきた。

**中谷副会長**

e-モニターアンケートは自発的に回答してくれる対象者で、食育アンケートは対象を決めて送っているのか。

**事務局**

食育アンケートは職員が出向いたところで行ったものである。年度初めに年代別で目標数値を定めている。食に関係ない講座やイベント等で実施するようにしている。また、例年女性の割合が高くなってしまふことから、男性には積極的にとるようにした。

## 中谷副会長

e-モニターでは男性の回答率が高い傾向にある。

## 中村会長

特に悪かった項目は何か。

## 事務局

資料5の2から「栄養バランスに配慮した食生活を送っている市民の割合」「内臓脂肪症候群(メタボリックシンドローム)の予防や改善のための適切な食事、運動等を継続的に実践している市民の割合の増加」は目標値と程遠い結果になっている。

## 中村会長

「朝食を毎日接種する市民の割合の増加」は目標値に達していない。40～60歳の時に比べたら良くなっている。「栄養バランス等に配慮した食生活を送っている市民の割合の増加」に関しては前よりも悪くなっている。

## 事務局

「栄養バランス等に配慮した食生活を送っている市民の割合の増加」は前回と質問項目が変わっている。前は「外食でメニューや弁当等を選ぶ際に、栄養成分表示(カロリー・塩分など)を参考にしますか。」の質問に対して、「いつも参考にする、たいてい参考にする、時々参考にする」と回答した人をカウントしている。今回は、「栄養バランス等に配慮した食生活を送っていますか。」の質問に対して、「はい」と回答した人がカウントしている。質問方法が異なることも数値が下がったひとつの要因と考えられる。

## 中村会長

「朝食又は夕食を家族と一緒に食べる「共食」の回数の増加」の8.1回は目標値に達してないということか。

## 事務局

はい。平均10回が目標値なので、2回ほど足りてないという結果である。

## 中村会長

「農水産業体験を経験した市民の割合の増加」は目標値を超したのか。

## 事務局

そうである。

## 中谷副会長

「農水産業体験を経験した市民の割合の増加」で計画策定時では保育園、小学校、中学校を対象にしているが、現状値の63%は一般の成人市民も含んだ数値なのか。

## 事務局

そうである。

## 中村会長

「農水産業体験を経験した市民の割合の増加」は広まったということか。関係しているところでアンケートをとったのか。

## 事務局

前回の「農水産業体験を経験した市民の割合の増加」では、大人の数値は出していない。今回は、大人だけの数値である。

## 中村会長

子どもの朝食欠食についてはやっていないのか。平成 23 年度の現状値はどうなのか。

## 事務局

やっているが、まだ集計ができていない。中学生以下は 100%に近づける。平成 23 年度の現状値で幼稚園、保育園は 99.2%。中学 2 年 91.2%。中学 3 年 94%である。

## 2 第 3 期鎌倉食育推進計画策定に向けて

事務局から、【資料 3】及び【資料 4】、【資料 5-1】を用いて、「第 3 期鎌倉食育推進計画策定に向けて」について、次のとおり説明がなされた。

### ・第 1 期及び第 2 期鎌倉食育推進計画の概要

平成 20 年度～24 年度の第 1 期鎌倉食育推進計画では、食育の認知度を高めると共に、食の大切さの周知・啓発、ネットワークづくりなどを行った。

平成 25 年度～29 年度の第 2 期鎌倉食育推進計画では、第 1 期と大きくコンセプトは変えず、全体的な底上げを図ることに加え、内臓脂肪症候群（メタボリックシンドローム症候群）の予防や改善につながる食育の推進、口腔機能の発達・維持に関して取り組みを行った。また、取り組みの柱として、食をとおした健康づくり、食をとおした人づくり、食でつなぐ地域づくり、食からはじめる環境づくり、食でつなぐネットワークづくりを掲げた。指標は、国の第 2 次食育推進基本計画の指標を基づいたものとした。

### ・国の第 3 次食育推進基本計画重点課題

国は、平成 28 年 3 月に平成 28 年度～平成 32 年度までの 5 年間を期間とする新たな第 3 次食育推進基本計画を策定した。第 2 次までの推進状況や社会の現状を踏まえて、重点課題として、①若い世代を中心した食育の推進、②多様な暮らしに対応した食育の推進、③健康寿命の延伸につながる食育の推進、④食の循環や環境を意識した食育の推進、⑤食文化の継承に向けた食育の推進の 5 項目を掲げた。第 2 期鎌倉食育推進計画には、この 5 項目の内容がほぼ含まれているが、国の第 3 次食育推進基本計画では、取組内容について、現状に合わせた表現や見せ方が変更されている。

### ・第 3 期鎌倉食育推進計画取り組みの柱から基本施策（案）

食育アンケート結果から、第2期までの取組みは今後も継続していくことが必要であり、国の第3次食育推進基本計画も、食育推進の方向性は大きく変更していないことから、第3期鎌倉食育推進計画では、第2期の取組みの柱を引き続き活かした体系とする。基本施策の中には、国の重点課題の視点や第2期鎌倉食育推進計画の評価を踏まえた視点を盛り込んでいく。

## 【質疑等】

### 中村会長

国の第3次食育推進基本計画と鎌倉の第2期鎌倉食育推進計画はそれほど変更点はないが、多少の表現方法を変えることで対応していくということ。一人暮らしの増加に伴い、家族で一緒に食べることは無理があるようだ。国の第3次食育推進基本計画をどう思うか。

### 牧田委員

第1期は目新しいのでみんな関心を持つが、アンケート調査の結果からもあるように、興味・関心が下がっている状況である。なので、切り口を変えることで、再度関心を引き付けることができるのではないか。

### 横塚委員

資料5の2の「朝食を毎日摂取する市民の割合の増加」の目標値が100%なのは良いことだが、鎌倉は都心にまで通勤時間がかかるので現実的には難しいのかもしれない。

### 富田委員

朝食の内容として「とりあえず何かしら食べればよいのか」「バランスよく食べることが大切」とするかも変わってくると思う。

### 中村会長

まずは「何かしら食べる」からでも始めるべきではないのか。

事務局から、【資料5-2】を用いて、第3期鎌倉食育推進計画指標（案）について、次のとおり説明がなされた。

#### ・資料の訂正について

「日常生活の中で、ごみの発生抑制に取り組む市民の割合の増加」の現状値が「いつも取り組んでいる人」の41%となっているが、正しくは「いつも取り組んでいる人」及び「ときどき取り組んでいる人」を合わせた85%の誤りである。

#### ・第3期鎌倉食育推進計画指標（案）

基本的に第2期鎌倉食育推進計画での指標を継続していくが、国の指標に合わせて、一部表現を変更した。新規項目としては、「地域や家庭で受け継がれ

てきた伝統料理や作法等を継承し、伝えている市民の割合の増加」及び「地域や家庭で受け継がれてきた伝統的な料理や作法等を継承している若い世代の割合の増加」を追加した。伝統食や食文化の推進は、第2期鎌倉食育推進計画の基本施策にあったが、指標としてはなかった。

鎌倉市健康づくり計画の「食生活・栄養」分野は、鎌倉食育推進計画と一部内容が重複するため、第3期鎌倉食育推進計画策定の際には、健康づくり計画の内容を踏まえて、整合性をとりながら進めていく。「朝食を毎日摂取する市民の割合の増加」「主食・主菜・副菜をそろえるなど、栄養バランスを考えて食事をとっている市民の割合の増加」「朝食又は夕食を家族と一緒に食べる「共食」の回数の増加」については、評価指標と同じものとなっている。

#### **【質疑等】**

##### **中村会長**

どの様な表現が変更になっているのか。

##### **事務局**

国が若い世代に重点課題をおいているので、若い世代を強調するために、指標項目を増やした。「栄養バランス等に配慮した食生活を送っている市民の割合の増加」を「主食・主菜・副菜をそろえるなど、栄養バランスを考えて食事をとっている市民の割合の増加」の具体的な表現方法に変更した。「内臓脂肪症候群（メタボリックシンドローム）の予防や改善のための適切な食事、運動等を継続的に実践している市民の割合の増加」を「生活習慣病の予防や改善のために、ふだんから適正体重の維持や減塩等に気を付けた食生活を実践する市民の割合の増加」に変更し、より食生活にポイントをおいた表現にした。

##### **中村会長**

「内臓脂肪症候群（メタボリックシンドローム）の予防や改善のための適切な食事、運動等を継続的に実践している市民の割合の増加」の目標値の50%は変えないのか。

##### **事務局**

目標値の設定については、今回のアンケートの結果をふまえて、判断していく。

##### **中村会長**

何が伝統料理か分からない。具体的なイメージはあるか。

##### **牧田委員**

鎌倉からイメージするのはけんちん汁である。わかめ等の海草も連想する。食に関心のある人が、食の偏った情報や知識に流されている傾向にある。栄養の基礎的知識を植え付けることが重要だと考えられる。

##### **中村会長**

低炭水化物食にすることで、半年間はダイエット等に効果はあるが、一生を

通してみると炭水化物を減らせば減らすほど、全疾患の死亡率が高くなるデータがあるので、極端なダイエットは良くない。

#### **有村委員**

食品成分表示が義務になったので、これを市民に使ってもらうことに意味があるのではないか。「主食・主菜・副菜をそろえるなど、栄養バランスを考えて食事をとっている市民の割合の増加」と具体化され、良いと思う。次期計画では「伝統料理」について上がっているので、地域の方との連携が必要と感じている。食生活改善推進団体など地域で活動している団体とうまく連携していったらよいと思う。学校給食でも「鎌倉らしさ」が出せる「あかもく味噌汁」を取り入れるなどして献立を考えている。子どもを通じて、お母さんや親の食育を考えていく方法も切り口として良いと思う。

#### **富田委員**

伝統的な料理を考えるとともに、作法を継承していくことも重要だと考えられる。

#### **中谷副会長**

教えてもらっていない事は教えられないので、学校などの共通の場で教育していくべきだが、学校給食の短い時間でどの様に取り組むべきか、難しいところがある。

#### **中村会長**

最近インターネットのアプリ等で時短料理のレシピが多くあるが、おいしいか。調理法や調味料などがいかがかと思うものもある。

#### **牧田委員**

美味しいものも多い。一人暮らしの若者が自炊のハードルを下げるためには、良い取っ掛かりとなるのではないか。国のいう世帯構造の変化にも対応していくことが大事だと考える。

#### **村山氏（メタ委員代理）**

普段料理ができない人にとって、時短レシピはありがたい存在である。

#### **安齋委員**

母親が教えられないようなら、別途教育の場を設けるべきなのかもしれない。

#### **牧田委員**

祭事期の行事食を伝えていくことも、和食の継承に重要と考えている。

### **3 第3期鎌倉食育推進計画策定までのスケジュールについて**

事務局から、【資料6】を用いて、第3期鎌倉食育推進計画策定スケジュールについて説明がなされた。3月上旬を目途にアンケートの実施を終了し、結果をまとめ、評価及び分析を行う。来年度は5月、8月、12月の計3回の食育連絡協議会及び6月、9月、1月の計3回の食育推進会議を開催する予定である。

第1回で骨子作成、第2回で素案作成、その後政策会議での報告、議会報告、パブリックコメントを経て第3回で第3期鎌倉食育推進計画を確定する。

#### **4 その他**

(1) 中学校給食について

##### **学務課長**

中学校給食の進捗状況についてお知らせする。平成29年11月開始予定となっている。笛田リサイクルセンターの隣に委託事業者が建設している給食施設で民間業者が実施する。1校に対して1台のトラックでランチボックス形式の給食を運ぶ。卵と牛乳のアレルギー除去食の提供を行う。主食と汁物は温かい状態で、おかずと牛乳は冷たい状態で提供される。値段は330円くらいを予定している。中学校の昼食は給食とはするが、様々な理由で給食の利用ができない場合は、家庭弁当の持ち込みを可とする。

##### **【質疑等】**

##### **中村会長**

お弁当でも良いのか。

##### **学務課長**

お弁当持参も可能だが、基本的には給食を食べて頂くようになる。

(2) 今後のスケジュールについて

次回の推進会議は6月頃に開催を予定しているが、詳しい日程等は調整して連絡することが確認された。議題は、第2期鎌倉食育推進計画の評価について及び、第3期鎌倉食育推進計画骨子(案)とすることが確認された。

##### **【質疑等】**

なし。

##### **■閉会**

閉会の挨拶

以上